



こま いぬ 『狛犬』をたずねて

狛犬は歴史の証人であり、語り手である。

八王子神社の出雲狛犬 (八王子神社・書写・神姫バス書写西住宅行など書写バス停西北200m)



八王子神社の出雲狛犬

江戸時代、奥羽地方、加越地方から米を運んで、日本海を南下して瀬戸内に入り、大阪に向った北前船は、独特の姿の狛犬を寄港する港々の神社に奉納して、航海の安全を祈った。この前肢を曲げ後肢を伸して、まさに跳躍しようとする勇壮な姿の狛犬は、出雲地方で特産の米待石で造られているので出雲狛犬と呼ぶ。姫路に現存するのは唯一対だけで、書写山麓の東坂にある八王子神社に置かれている。阿形の台石の後の左下方に文政13年の銘が見られる。文化年代から造り始められたと思われる出雲狛犬としては古い方に属する。船で運ばれてきた出雲狛犬が、海を遠く離れた書写山麓に置かれているのは一つの謎である。あるいは夢前川を舟で漕いだのではないかとと思われるが、まだこの

狛犬からは詳しいことは聞いていない。姫路の出雲狛犬は姫路港の近くの海神社にもあったそうであるが、戦災で姿を消したといわれている。この狛犬から昔の話を聞くことができないのは残念なことである。

桑原神社の江戸狛犬 (桑原神社・伊伝居・神姫バス野里線伊伝居バス停西北200m)

日本の石造狛犬は鎌倉時代から造り出されているが、庶民が奉納した狛犬が数多く見られるようになったのは、江戸中期からである。先ず江戸の町で最初に石造狛犬が神社に奉納され、それを見て船で江戸に往来していた大阪の人が、大阪の海の神様の住吉神社に関西で最初の石造狛犬を奉納した。元文元年(1736)のことである。

それからこの風習が次第に地方に伝わり、瀬戸内でも段段に西の方で狛犬が見られるようになった。播磨の一番古い狛犬は明石の柿本神社・宝暦4年(1754)のもので、ついで別府の住吉神社、さらに加古川の粟津神社へと西進してきた。姫路に現存している最も古い狛犬は、伊伝居の桑原神社・明和元年(1764)のものである。この狛犬は頭

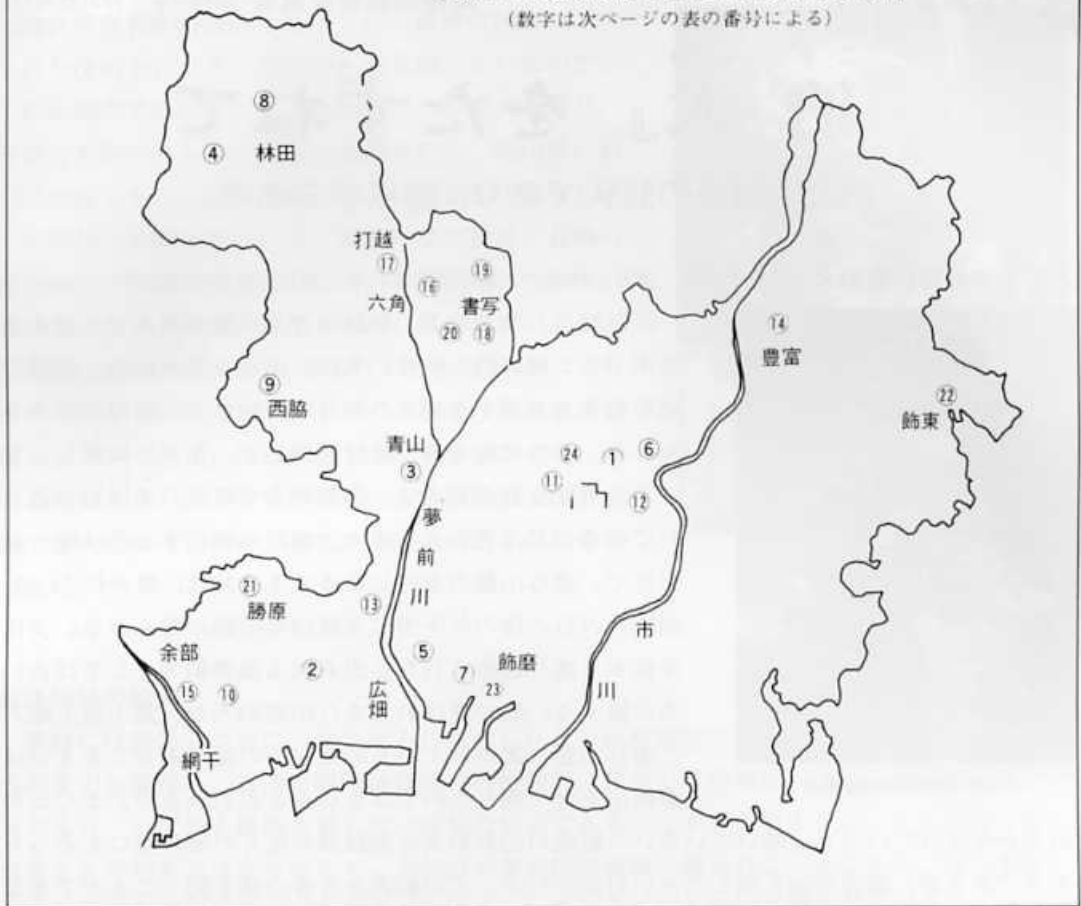


桑原神社の江戸狛犬

が大きく体がズングリしていて、姫路の近くでは類を見ない狛犬である。よく似ているものは、江戸の六郷神社をはじめ二つ三つある。どうしてこの桑原神社に江戸系統と考えられる狛犬があるのかわからない。

天保年代以前の紀年銘のある狛犬の分布

(数字は次ページの表の番号による)



大阪狛犬

姫路の海岸に沿った土地の古い狛犬は、大阪系統のものが多い。これは大阪に狛犬を造る専門店があり、そこで造って売っている狛犬を買ってきて神社に奉納したためであろう。この大阪狛犬が置かれているのは英賀神社・寛政6年(1794)、津田天満神社・享和2年(1802)、魚吹八幡神社・文化14年(1817)、才の天満神社・文政4年(1821)等である。



英賀神社
(飾磨区英賀宮町)



津田天満神社
(飾磨区今在家)



魚吹八幡神社
(網干区宮内)



才の天満神社
(広畑区才)

姫路の古狛犬一覧表 (天保年代以前の紀年銘のあるもの)

番号	神社名	所在地	年号	
1	桑原神社	伊伝居	明和1	1764
2	天満神社内金刀比羅神社	広畑区小坂	天明4	84
3	稲岡神社	青山	寛政2	90
4	祝田神社	林田町林田	◇ 3	91
5	英賀神社	飾磨区英賀宮町	◇ 6	94
6	日吉神社	野里	◇ 9	97
7	津田天満神社	飾磨区今在家	享和2	1802
8	八幡神社	林田町八幡	文化1	04
9	破磐神社	西脇	◇ 10	13
10	魚吹八幡神社	網干区宮内	◇ 14	17
11	水尾神社	山野井町	文政1	18
12	白山神社	城東町	◇ 2	19
13	天満神社	広畑区才	◇ 4	21
14	甲八幡神社	豊富町豊富(江飼)	◇ 7	24
15	二神社	余部区下余部	◇ 7	24
16	大年神社	六角	◇ 10	27
17	大国主(大国主)神社	打越	◇ 11	28
18	八王子神社	書写(東坂)	◇ 13	30
19	円教寺護法堂	書写(書写山奥之院)	◇ 13	30
20	日吉神社	書写(西坂)	天保2	31
21	吉備神社	勝原区下太田	◇ 3	32
22	熊野神社	飾東町小原	◇ 9	38
23	天満神社(恵美酒宮)	飾磨区恵美酒	◇ 15	44
24	大歳神社	八代宮前町	◇ 15	44



恵美酒宮の尾道狛犬

飾磨の天満神社(恵美酒宮)の尾道狛犬 (恵美酒宮・飾磨区恵美酒・山電飾磨駅南西300m)

北前船で運ばれてきた独特の姿の狛犬として、尾道狛犬がある。広島県の尾道で、江戸後期の文政年代に造り出されたものである。阿吽ともに前肢を大きい球の上に乗せて立上った姿である。尾道を中心に西は山口県の広島湾沿いの地方に分布し、東は広島県から岡山県の瀬戸内海沿岸地方に見られる。兵庫県にはいと、坂越の大避神社と飾磨の天満神社(恵美酒宮)の二所だけである。これより東の方には全く見られない。飾磨の天満神社のは天保15年の年号と、後方には尾道住として石工の名が刻んである。この姿の狛犬を造り出された初期に尾道で造られたものである。尾道狛犬に似た形のものは、妻鹿の御幸岩神社、辻井の生矢神社にもあるが、ともに明治末年の作であり、形も古い型と違っている。



金刀比羅神社(小坂)の狛犬
他の神社と左右の配置が反対

曾坂の^{にいすき}新次神社の^{いんべ}伊部狛犬 (新次神社・豊富町御蔭・神姫バス大貫又は山田經由北条行曾坂口バス停東400m)

奈良朝の昔から焼物を造っていた備前の伊部は、すぐれた技術と、大きい物を焼く窯を持っていたので、江戸末期の文政時代から、焼物の大きい狛犬を造り、石造のものかわりに神社に奉納された。岡山県に約100対近くある。これも軽いため北前船で運ばれ多くの神社に奉納されている。東京の品川神社、長崎の諏訪神社、出雲の美保神社に古いものが残っている。岡山県では東の県境の日生、寒河に置かれているが、姫路には曾坂の新次神社、林田町下伊勢の^{なす}榊神社にそれぞれ一対あるだけである。すべての神社に石造狛犬が置かれていたので、陶器の狛犬を置く余地がなかったのかも知れない。なお江戸時代の古い伊部狛犬は、近畿では大阪の住吉神社、京都の清水寺の近くの妙見堂にある。



新次神社の伊部狛犬

姫路独特の狛犬

姫路には面白いことに、他の地方には見られない姫路独特の狛犬が多い。小坂の天満神社内の金刀比羅神社、青山の稲岡神社内の白幣稲荷、野里の日吉神社、蒲田の蒲田神社等がそれであり、いずれも姫路の最も古い部類の狛犬である。しかもその多くが、どこか姿・形に共通なものがあるばかりでなく、大部分が夢前川の流域に置かれていることは、何か意味がありそうである。しかしこれもその狛犬達は、今のところまだ何も話してくれない。何とかして話を聞出したいものである。

人とうちとけて話をするには、相手の生れなり、境遇、性格を知っておくことが大切である。狛犬についても同じである。狛犬と話をするには、台石に彫られている銘を読取る必要がある。奉納年、願主名、石工名を確認しなければならない。長い年月の間に、それらは消えかかっているものが多いが、できるだけ努力をしてそれらを知る必要がある。また顔はいうまでもないが、尾の形もそれぞれの狛犬に特色がある。これを見ることを忘れてはならない。



蒲田神社
(広畑区蒲田)



稲岡神社
(青山)



日吉神社
(野里)



金刀比羅神社
(広畑区小坂)